

37 キャンプファイア・ボンファイア

キャンプ活動の「精華（せいかに）」とも言われています。星空の下、燃えさかる神秘の炎を囲み、火を見つめることで心をひとつにし、喜びを分かち合うことができます。また、炎で顔を赤く染めた仲間と繰り広げられるレクリエーションは、子どもたちに大きな感動を与えるでしょう。活動のメリットとしては、

- ・仲間との親睦を図ることができます。
- ・厳粛な雰囲気を経験することができます。
- ・「火」をテーマに、自然への畏敬の念を育むことができます。

※「ボンファイア」とは丸太を使わないキャンプファイアのことです。



↓↓ 参考動画 ↓↓



キャンプファイア



ボンファイア

時 期	4月～10月 ※荒天時はできません。	所要時間	1時間～2時間 (準備時間含まず)	活動場所	営火場は4カ所 (火文字用金網あり)
対 象	小学生以上 (大人同伴であれば幼児も可能)	人 数 (目安)	はばたき営火場 … 80人程度まで なかよし営火場 … 150人程度まで かがやき営火場 … 150人程度まで あかまつ営火場 … 150人程度まで		
準 備 物	自然の家で貸し出すもの			団体・個人で準備するもの	
	□衣装(火の神、火の守他) … 多目的ホール用具室 □冠、火の神が使う杖 … 多目的ホール用具室 □マイク、セレモニーやレク用のCD … 事務室 □脚立 … 営火場または玄関 ※厚板を針金で結ぶときや火文字を金網に付けるときに使います ＜各営火場に備え付けてあるもの＞ ・消火用水道とホース ・放送用具一式 ・トーチ(8個) ・一輪車(1台) ・針金 ・ペンチ(1個) ・ほうき(1個) ・スコップ(1個) ・ 灰運搬用ステンレス容器(1個)			□軍手 □トーチ用古布 □マッチまたはライター (点火するときに使用する) ＜火文字を使用する団体＞ □火文字用に する古布	
活動の手順	事前準備	1 児童生徒の役割分担・グループ編成 ○セレモニーの役割(火の神・火の守など)や司会進行、ゲーム担当、音楽担当など、団体の予定している内容に合わせて分担を決める。 ○必要に応じて、セレモニーの練習・スタンツや出し物の練習等をおこなう。 ※役割分担や第Ⅱ部・第Ⅲ部についてはP54～、スタンツについてはP63を参照 火の神・火の守の言葉についてはP56を参照 2 歌やフォークダンス等の指導 ○第Ⅰ部で歌う「遠き山に火は落ちて」「もえろよもえろ」、第Ⅲ部で歌う「今日の日はさようなら」などを事前に練習する。 ○第Ⅱ部で楽しむレクリエーションなども必要に応じて練習する。 3 引率者の役割分担 ○火気の現場責任者を決める。 ○司会進行補助や第Ⅰ部や第Ⅲ部のセレモニーの役割(火の神)等を決める。			
	活動の実際	1 営火場の準備をする(P52～参照)。 ○放送器具の設定 … 営火場用具小屋の鍵は事務室 ○まきの組み立てと灯油の準備 … 灯油タンクの鍵は事務室 ○トーチの準備 ○火文字の設置 ※必要な団体のみ行う。 2 活動例(P54～参照) ＜第Ⅰ部 迎え火のつどい＞ …おごそかに、神秘的な雰囲気です！			



	＜第Ⅱ部 交歓のつどい＞…楽しく、交流を深めて！ 全員で踊ったり歌ったりゲームをしたりする。 グループごとにスタンツをやるのも楽しい。 ＜第Ⅲ部 送り火のつどい＞…静かに、心の糧を確認し、明日への希望をもつ！ 注意点 ・服装を整え、火の粉による火傷を予防する。 ・火災が起こらないよう十分注意する。火勢や火の粉に気を配り、場合によっては、注水しながら火勢を弱める。 ・第2部の終わりには火が弱く燃えるように調節する。
事後	1 当日の後片付け ・水をかけて21時30分までに完全消火する。 ※丸太や厚板等の中の方までに十分に水をかける。 ・用具や鍵は返却する。 2 翌朝 ・営火場の燃え残った丸太や薪、灰を片づけ、きれいに清掃する。 ・火文字をした団体は、針金と燃え残りの布を、ゴミ捨て場にある指定された場所に捨てる。
備考	○どの営火場を使用するか、事前に同日利用団体と（利用団体引率者研修会等で）調整します。 ○1か月前までに「食事等申込書」でキャンプファイア（ボンファイア）をする人数を書いて申し込んでください。 ○雨天時キャンドルファイアに変更する場合は、その旨を「食事等申込書」に記載してください。 ○営火場の電源（街灯、放送機）がつかない場合は事務室（0254-46-2224）に連絡してください。

かがやき営火場



はばたき営火場



なかよし営火場



あかまつ営火場



各営火場の場所は、巻末の「野外施設案内図」でご確認ください。

キャンプファイアの準備～あとしまつまで

1 まき・灯油の準備

- リヤカーを使い、まき小屋から丸太8本と長い厚板を10～15本、営火場に運ぶ。
- 松葉小屋から、松葉をバケツ1杯程度持ってくる。
- 開始15分前に、事務室から灯油タンクの鍵を借り、灯油保管庫からポリタンクに入れて運ぶ（ポリタンク4分の1の量がよい）。



軍手をつけてね

2 木を組む

- 厚板を上から入れる。
 - ・厚板の先端に針金を巻いて固定する。
 - ・厚板の先が集まるように組むと、まとまった大きな炎になりやすい。
 - ・風がある日は小さく作った方がよい。
- 丸太を営火台の鉄の棒の間に井桁に組む。
 - ・各列2段目まで組む。（計8本）
- 丸太の隙間に松葉をつめる。
- 点火する場所の松葉に灯油をかける。
 - ・揮発するので直前に掛ける。



3 あとしまつ

当日 ホースで水をかけて完全に消火する。（煙が出なくなるまで）

※完全に消火されるまで、管理者は火もとを離れない！

翌朝

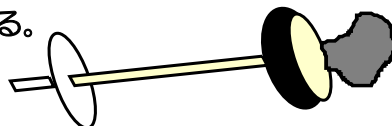
- 燃え残った丸太や薪は、所定の灰おき場に置く。
 - ※営火場小屋にあるステンレス容器に入れ、一輪車で運ぶとよい。
- ※砂やゴミがまき処分場に入らないように注意する。
- 営火台の周りをほうきで掃く。
- 針金は拾って所定の置き場所（灰おき場と同じ場所）に持って行く。



丸太や薪、針金の置き場は決まっているので、場所を間違えないこと

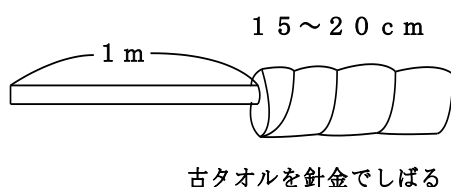
4 トーチの作り方（棒は細すぎると火が燃え移って焼き切れてしまうおそれがあるので、太めのものがよい）

- トーチに、布かタオル（薄いタオルなら半分程度の大きさ）を詰めて灯油をしみ込ませる。

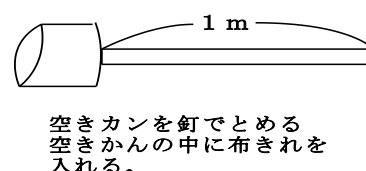


- 全員にトーチを持たせる場合は、利用団体で作ってくる。

＜手作りトーチ例1＞



＜手作りトーチ例2＞



5 火文字の作り方



＜火文字ネットの寸法＞

- ・はばたき営火場 縦140cm、横420cm
- ・なかよし営火場 縦135cm、横465cm
- ・あかまつ営火場 縦135cm、横465cm
- ・かがやき営火場 縦135cm、横465cm

○タオルを長く広げた状態から、縦に8つくらいに折った後、多きつめにねじる。

- ・針金に余分があれば、タオルのねじりとは逆巻きに針金で大まかに巻いておく。そうすると、タオルのねじれを保つことができ、この後の作業が容易にできる（ねじったタオルを事前に作っておくと準備はスムーズ）。



○火文字設定場所の金網に、ねじったタオルを針金で止めながら文字を作っていく。

- ・針金は10cm位に切り、タオルで作った文字を約20cm間隔で止める。

○空き缶または灯油タンクに灯油を入れ、タオルで作った文字に灯油をしみこませる（開始15分前）。これで完成！

- ・灯油をつけすぎると、炎が大きくなり、文字が浮き出ないことがある。



留意点

- ・文字を作成するときは、簡単な文字（平仮名やカタカナ）で大きく作ると見栄えがする。漢字の場合は、タオルどうしの間隔を開けるとよい。
- ・タオルをつないで文字を作っていくときは、タオルとタオルを重ねた部分が団子にならないようにする（一部分のみ大きく燃えないようにするため）。
- ・文字が燃え終わったら、燃えかすの落下地点の周辺に水をまき下草が燃えないようにする。

